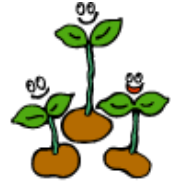


《まめ知識》



加硫法で拡がったゴムの可能性

2009年10月

現在、オフィス、工場、家庭、いたるところにゴム製品が使われています。ゴムは、その弾力のある性質から現代には欠かせない材料であり、現在のところゴムに代わる材料は見つかっていないそうです。

さて、現在では緩衝材や絶縁体として重宝されているゴムですが、1500年頃にコロンブスによってヨーロッパに紹介されてから後200年ほどは、具体的な用途がなかったそうです。

それはなぜかという、ゴムの持つ弾性が、そのままでは衝撃吸収などに役立つほど強いものではなかったからです。弾性体として実用化されるようになったのは、ゴムに硫黄を混ぜて加熱すると、ゴムの弾性が飛躍的にアップし、さらに絶縁性、不浸透性、耐久性もがアップするということがわかってからです。

この技術は“加硫法”というもので、1839年にアメリカのチャールズ・グッドイヤーという人が実験中に偶然発見しました。その後、加硫法によってゴムの実用化が急速に進み、様々な用途で役立つようになったのです。“加硫法”がなければ、自動車や飛行機などの乗り物も生まれなかったかもしれません。加硫法によって、ゴムの可能性が大きく広がったのですね。

・世界最大のタイヤ会社 グッドイヤー社は、チャールズ・グッドイヤー氏の名前にちなんで付けられました。

Copyright(c) 2006 OKAYAMA CO., LTD. All Right Reserved



〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目32番7号

TEL 03-5688-6700 / FAX 03-5688-6709 [E-MAIL okayama@kk-okayama.co.jp](mailto:okayama@kk-okayama.co.jp)